

短日処理による促成イチゴの前進作型

- 小型ポット利用による苗養成及び短日処理期間・定植時期 -

促成イチゴの前進作型は、小型ポットに苗の鉢受けを6月下旬までに実施し、15日間以上苗を養成した後、30日間以上の短日処理を行うことで可能である。短日処理による全期収量は暗黒低温処理と同等以上となる。



写真1 イチゴの短日処理

小型ポットに受けた苗のランナーを切り離した後、15日以上の苗養成期間を確保する。その後30日間以上の短日処理を行う。品種は促成用品種の「女峰」を用いる。

小型ポットは、商品名「愛ポット」と呼ばれ、ポリプロピレン樹脂製の硬質プラスチックである。

ポットは円筒形で、内径40mm、長さ150mm、内容量115ml。



表1 出蕾開花状況(平成10年)

苗養成 日数(日)	短日処理 期間(日)	(出蕾開花株率：%)		
		9月7日	9月14日	9月21日
15	30	6.3	75.0	100.0
30	30	6.3	62.5	100.0
46	30	75.0	100.0	-
0	45	18.8	100.0	-
16	45	6.3	93.8	100.0
31	45	53.8	92.3	100.0

短日処理により、出蕾開花株率100%となり、花芽分化の促進ができる。

表2 処理別収量(平成9年~10年)

処理日数	収穫開始 (月/日)	1果平均 重(g/個)	年内収量 (kg/a)	全期収量 (kg/a)	同左対比 (%)	M以上収 量(kg/a)	同左比率 (%)
養成61・暗黒20(8月定植)	10/ 9	11.0	113.9	362.4	100	218.6	60.3
養成46・短日31(")	10/ 9	10.9	141.8	386.8	107	246.1	63.6
養成16・短日61(")	10/17	10.1	134.0	371.1	102	206.9	55.8
養成48・暗黒20(9月定植)	12/ 1	10.6	16.1	298.5	100	134.1	44.9
養成48・短日28(")	12/10	9.3	12.1	309.3	104	113.8	36.8
養成17・短日59(")	12/ 5	10.2	18.8	386.9	130	190.2	49.2

短日処理後、8月上旬の定植は、10月上旬~中旬からの収穫となり、年内収量 a 当たり 130~140kg となる。9月上旬定植では、12月上旬からの収穫となる。